

平成29年度第2回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 平成29年12月22日(金) 午後13時30分～午後15時00分

2 場所 秋田市役所 正庁

3 出席者

(1) 委員(15人)

相場哲也会長、大野忠行委員、奥田貴子委員、小山清博委員、
小林崇之委員、佐々木亮次委員、佐藤真知子委員、澤口勇人委員、
鈴木雅征委員、多田基大委員、中川聖子委員、福田廣美委員、
細部あけみ委員、山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

碓谷阿津子子ども総務課長、赤上智子子ども育成課長、佐々木保施設指導室長、
茂木有子子ども健康課長、新田目剛子ども未来センター所長、ほか関係職員

4 傍聴者 1人

5 会議の内容

○開会

○議事

- (1) 第2次秋田市子ども・子育て未来プランの中間評価について
- (2) 量の見込みと提供体制の確保における中間年の見直しについて
- (3) 市民意識調査の結果について
- (4) その他

○閉会

6 議事要旨

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(1)「第2次秋田市子ども・子育て未来プランの中間評価
について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

○相場哲也会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見をお願いいた
します。

【意見なし】

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(2) 量の見込みと提供体制の確保における中間年の見直

しについて事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

○相場哲也会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見をお願いいたします。

○渡辺丈夫委員

幼稚園型の一時預かり事業について、確保方策として、2号認定で確保とのことでしたが、1号認定で利用しているかたについては、2号認定として確保することなのか、1号認定として預かり保育で対応するのかどちらでしょうか。

○事務局（大淵子ども育成課長補佐）

日常的に預かり保育を利用しているものを2号認定として区分し、表記しているものであり、2号認定の施設で確保するというものではございません。

○相場哲也会長

基本施策6-4 社会参加に困難を有する子ども・若者への支援の①職場体験提供事業所数について、中間値で20事業所となっているものが、平成31年度では10事業所となっている理由を教えてください。

○事務局（碓谷子ども総務課長）

中間値で当初目標としていた20事業所を達成しております。今後も事業所が増加していくことは良いことだとは考えますが、目標の考え方を事業所の増ではなく、その事業に参加している人数の増と変更しておりますので、今後はそちらで判断していきたいと考えております。

○渡辺丈夫委員

大阪のある自治体では保育料無償化を先行して実施したところ、1号認定が減り、2号、3号認定が増えたそうです。秋田市でも無償化を実施しているため、今後2号、3号認定が増えていくのではないかと考えます。そうすると、いくら保育所を増やしても待機児童の解消にはならないのではないのでしょうか。

○事務局（赤上子ども育成課長）

保護者の希望の受け入れが可能となるよう努めているところであります。また、企業主導型や保育料無償化などの事業も行っておりますので、市としての対応について今後どうするのか検討してまいります。

○相場哲也会長

市としては、先ほどのような様々な意見があると思いますので、その意見を認識しつつ事業に取り組んでいただきたいと思います。

○渡辺丈夫委員

例えば東部地区では、1号認定が多く、2号認定が少ない状況であります。その1号認定の活用方法として、働きながら2号認定ではなく、1号認定で預かりを利用できる仕組みなど考えていただきたいと思います。

○山崎純委員

1つ目はP22の保育士人材確保事業についてですが、目標指数を求人件数に対する就職件数の割合としており、現状を7.7%としておりますが、これは保育士資格を持ちながら、保育所に勤務していなかったかと理解してよろしいでしょうか。2つ目として、目標を20%としておりますが、どのような手法を考えている

のか。3つ目は、潜在保育士の数に、既に就労している人も含まれているのではないかと思います。いかがでしょうか。意見としては、放課後の子どもの過ごし方として、スケジュールを過密にし過ぎると、子どもの自由な行動、選択が出来なくなってしまうため、子どもの自由を確保できるよう配慮していただきたいと考えます。

○事務局（藤原子ども育成課主席主査）

保育士人材確保推進事業については、指数については、求人件数78件に対して、就職件数が6人となっており、保育士・保育所センターに登録しているかたとなっております。年度途中から開始した事業であり、通年に置き換えて16人で20%としております。

○山崎純委員

求人件数には、現在も保育所に勤めているかたも対象になるのではないのでしょうか。

○事務局（赤上子ども育成課長）

求人件数には、現在保育所に勤めているかたも含まれています。放課後児童の過ごし方については、自由に遊べる、選択できる時間を設けながら、各児童館でスケジュールを設定しております。

○澤口勇人委員

現在保育所に勤めているかたは、潜在保育士とはならないのではないのでしょうか。

○事務局（赤上子ども育成課長）

実状などを再度精査し、検討してまいります。

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(3) 市民意識調査の結果について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

○相場哲也会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見をお願いいたします。

【意見なし】

○相場哲也会長

それでは、次に、(4) その他について何かございますか。

【事務局説明】

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見をお願いいたします。

○澤口勇人委員

秋田市が子どもにとって幸せなまちとなるように、様々な経験の中などから子どもの視線を組み込んでいければと思います。

○事務局（碓谷子ども総務課長）

委員のおっしゃる通りだと思います。そのためにこの会議で様々な意見をいただきながら、子育て支援に取り組んでいきたいと思っております。

○相場哲也会長

ほかにごございませんか。ないようですので、これをもちまして議事を終了します。